

健診科

1. 概要

健診科（予防医療センター）は、故瀬川元院長が東三河総合健診センターの後継的役割を果たす目的で整備・拡張された事に始まる。受診者は自治体職員や各種企業と個人等である。年齢が進むにつれ、持病を持つ方も多い。

健診診察は、大橋と鳥居が担当。常勤医不在時は予防医療副センター長内藤による迅速サポートを受けている。午前診察は新しい疾患を見つけ出す事もあるが、主な業務は既往歴、現病歴、治療状況の聴取や受診者自ら選択健診コースの確認と必要時コース変更をすること、内服薬をお薬手帳で確認、安全に検査を受けていただくことである。また、診察中、全身に及ぶ質問を受ける事も多く、わかる範囲で返答、適切な専門医受診を助言している。健診一次検査とその判定は各診療科専門医が担当し、中央臨床検査室と放射線技術局の協力を得ている。二次検査とその判定、必要時の治療と経過観察関連はほぼ全科に及ぶ。

当院健診は、関係各科の忙しい診療の中、その妨げとならぬ範囲で行われ、量より質を重視し、医師を始め実に多くの院内職員協力により成立している。その中で、有意義な健診を受診者に提供すべく予防医療センターは院内のハブ的役割を担っている。各専門医実臨床に立脚した高い精度健診成果の一端として、最近11年間に発見された癌は、胃癌（NET 1例、胃神経鞘腫 1例を含む）80例、大腸癌（NET 2例を含む）57例、前立腺癌39例、肺癌13例、食道癌13例、乳癌14例、腎臓癌（IgG4腎腫瘍 1例を含む）14例、血液悪性腫瘍（ML3例、CLL1例、CML3例、ATL1例）8例、十二指腸癌（乳頭部癌1例、NET1例を含む）5例、子宮癌3例、肝臓癌3例、膀胱癌2例、転移性肝臓癌（上腕平滑筋肉腫1例、GIST 1例）2例、縦隔腫瘍2例、尿管癌1例、胆のう癌 1例、胆管癌1例、膵癌1例、膵癌術後の胃転移1例、後腹膜腫瘍1例、甲状腺癌1例、副腎腫瘍1例、転移性肺腫瘍（軟口蓋悪性腫瘍）1例の計264例である。そのほとんどは早期で発見され、治療予後は良好である。

最後に健診受付と会計業務は受付事務員、健診に関わる団体契約、広報、個人情報データ関連等は医事課と医療情報課による支援を受けている。最終結果判定と説明は医師が実施。当センター看護師が各科との連携・調整やデータ取り寄せ、その確認と健診システム最終登録。受診者の問い合わせや精査・外来予約等の中核的業務を担っている。コロナ禍でも健康を守る一助としての健診業務を粛々と実施している。

（部長 大橋 信治）

講演（医局）

（健診科）

1	大橋 信治.【AI内視鏡診断への備え】.令和2年度医療機関胃内視鏡検査講習会.豊橋市.2020/2/15
---	--